

観自在

弘長寺寺報
第二十七号
平成二十五年
八月(年
二回発行)

東日本大震災被災物故者 諸霊の成仏を祈る

弘長寺住職 森田裕光

あの大地震から一年半が経とうとしています。
死者約一万六千人、行方不明者約二千七百人、原発事故による避難生活者約三十万人。

宍道町の人口が約九千三百人ということを考えれば、ものすごい数ですね。未だに行方不明の方もこれだけおいでになるのですから、そのご家族のご心情を察すると胸が痛みます。ひたすら成仏されんことを祈ります。

現代はインターネット時代ですからパソコンのスイッチをひねれば溢れるほどの情報が手に入ります。

東日本大震災の中で一番最初の項目が幽霊となっていましたので、そこを検索すると、幽霊を見た、海の上を人が歩いていて、水たまりに多数の目玉があった、枕元に亡くなった人が出る、タクシー客が深夜、津波で家が一軒もないはずの場所を指定したので後ろを振り返ると客がいらない、等のお話が数えきれないほどあります。中には茶化したお話や文章もありますが、住職には、

なるほどこの世に想いを残した方の無念の現れだから、間違いなく事実であろうと納得できるお話が殆どです。例えば、幼な子を残して亡くなった親達は、そう簡単に成仏などできてたまるものですか。

ネットにはゾツとするような心靈写真も山ほど載っています。圧巻は動画です、とても霊の仕業以外には考えられない不思議な霊現象を捉えた映像もあります。

日が落ちた後で立ち入ると必ず霊が出るという場所は、夜間立ち入り禁止になりました。

「幽霊などいるものか」と豪語する方は、一度この場所に入ってみたら如何でしょうか。

例を上げれば切りがありませんが、一度ネットをのぞいてみる価値は絶対にあります。

五月、梅花流全国奉詠大会・宮城大会にお檀家講員二名と共に出かけました。



写真提供：島根県第二宗務所



住職が一番希望していた、仙台市郊外の「鎮魂の森」にて、読経と御詠歌をお唱えさせていただきました。

傘なしで時ならぬ冷たい雨と冷たい風の中、津波にのまれた方達の冷たさ、苦しみのほんの一部を感じながらの供養でした。

厳しい夏を迎えて

弘長寺護持会
会長 武田民三

異常気象で迎えた今年の梅雨入りですが、その梅雨明けともに体験したこともない異常なものでした。

檀家の皆さまには、いよいよご健勝の御ことと拝察申し上げます。

常には菩提寺のことにお心をお配り頂き、心から感謝を申し上げます。

八月七日は、恒例の大施食会が新装なった(私達のご先祖さまが恒に在します処)本堂で、盛大かつ厳粛に執り行われます。

檀家にとり、これ程に幸せなことはいずれもありません。

私達は仏教徒として、この菩提寺を大切に想い続けてまいりましょう。

さて、仏教では「一切皆苦」との言葉があります。

何時か方丈さまのお説教に「人生はすべて苦である」とありました。

法句経の冒頭にある「苦」のことをお述べになったのではと推察しています。

「四苦八苦」即ち「生老病死」の四つの苦しみに「怨憎会苦」「愛別離苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」を加えた八つの苦しみがあると教えられます。

では、思い通りにならない人生を幸せに歩んでゆくには、どうすればよいでしょうか。

お釈迦さまは「心の在りように苦・楽が付き従ってくる」と教えておられます。苦を無くすることはできないけれども、心のもちように依って苦を乗り越えることができるとの教えであります。

キリスト教では「憎しみは、憎しみによって消えることは無い。愛の心に依つ

てのみ消える」とあります。光明思想で説く教えに「闇は無い。光を点じれば自ずと闇は消える」ともあります。

明るい心になりさえすれば「苦」を消すことができるとの事です。



私事で恐縮ですが、家内を亡くしたとき、「何で私がかんな目に遭わなければならぬのか」と思われて、苦しみに押し潰されそうになりました。

仏教では「この世は無常であり、無情である」とも説かれています。この世は無情なんだ」と現実を見据えていると、やがて苦を乗り越える路が見えて来ま

した。

心が挫けそうになったとき、「汝一人ならば、吾(神・佛)と伴に二人なりと思え」との言葉に、孤独から救われました。

お釈迦さまは、決して「自分の教えを信じれば、何時までも長生きできる」とはお説きになっていません。

そのことは、「悟りこそ滅しない永遠に続くもの」だと、「不死」の語で表しておられます。

即ち「聞く耳をもつ者に不死の門は開かれた。それぞれに信をおこしなさい」と。「人間の悟りは不滅」であり、「不死の境界」は「悟りの境地」である、とお説きになっているのです。

本堂の大改修事業の献志は、余すところ七回となりました。

檀家皆さまの総意に依る大事業も、平成二十七年の春をもって完了いたします。

報恩の心を大切に、最後まで
務めを果たしてまいりましよ
う。

檀家皆さまの限りないお幸
せを祈念して止みません。

ありがとうございます。

合掌

水にも仏心

弘長寺護持会

副会長 坂本研次

暑い夏が巡ってきました。

梅雨の間、山に貯えられた
水が田や畑を潤し、稲・果物
や野菜を育み、豊かな稔りの
営まれる季節です。

その水が田んぼから川に出
て、ミネラルをたっぷり含ん
で宍道湖や海に流れ出て、海
草や魚介を育て、私たちの生
命をつないでくれています。

しかし豪雨の時は困ります。
昔から水の害を防ぎながら

水の恩恵をうまく受ける工夫
が続けられています。



今年の梅雨は、当地方では
ありがたい恵みの雨で終始し
たようですが、山や田畑は洪
水調節の役目も果たしていま
す。

長い年月をかけて、水路や
田んぼが整備され現在に引き
継がれて、緑が一杯に広がっ
ています。

お盆には、各地からたくさ
んの方々が心の安らぎを求め
て、水と緑の古里を訪れられ
ます。

掃除の行き届いた墓前には

お米に線香、みずみずしいお
花をお供えし、きれいな水を
たっぷりお供えますが、水
をお供えすることは、昔から
「水まつり」と呼んでいます。
水がいかに大切なものであ
るかを今日に伝える言葉でしよ
う。

暑い夏は水が殊更大切です。

一滴の水にも仏心があるの
ではないでしょうか。

どうか今年の夏、水の災い
がなく、豊穰の秋を迎えられ
ますようお願いいたします。

合掌

「憎しみに報いるに憎
しみを捨ててこそ息
(や)む」

弘長寺護持会

副会長 内田松寿

今年の夏はことさら暑い。
また終戦記念日がやってく

る。

終戦後六十八年が経過し、
経済復興し繁栄し平和な？今
日の状況からもはや戦後では
ないという人もいる。

今の日本があるのは、一人
のスリランカ人のおかげだっ
たというのを本「人生を豊か
に生きる」第二章(松原泰道著)
を読んで知った。

第二次世界大戦後のサンフ
ランシスコ講和会議にセイロ
ン(現スリランカ)代表のジャ
ヤワルダナ大蔵大臣(初代ス
リランカ大統領)が出席する。
席上、諸外国からは、

「日本に今、この段階で平
和を与えるのは、もつてのほ
か」

すべき」

「日本を独立させるのは時
期尚早」

等さまさまな議論・意見が
出る中、仏陀の言葉を引用し、

こう語った。「戦争は戦争として、終わった。」

もう過去のことである。我々は仏教徒である。

やられたらやり返す、憎しみを憎しみで返すだけでは、いつまでたっても戦争は終わらない。

憎しみで返せば、憎しみが日本側に生まれ、新たな憎しみの戦いになって戦争が起きる。

戦争は憎しみとして返すのではなく、優しき、慈愛で返せば平和になり、戦争が止んで、元の平和になる。

戦争は過去の歴史である。もう憎しみは忘れて、慈愛で返していこう」と。

対日賠償請求権の放棄を明らかにするとともに、わが国を国際社会の一員として受け入れるよう訴える演説を行った。

この演説が、当時わが国

に厳しい制裁処置を求めた一部は戦勝国をも動かしたといわれ、その後のわが国の国際復帰への道につながる象徴的出来事として記憶されている。



教科書等には載っていないが日本人が絶対に忘れてはならないことです。

合掌

お知らせ

お願い

●境内の草刈り整備をしていただきました

境内の草刈りをしていただきました。

中垣地区飯塚哲久氏により、ボランティアで数名の方にお世話になりました。

●施食会

恒例の当山最大の行事であります山門大施食会法要を八月七日に行います。僧侶十二名の読経による先祖供養です。

先祖代々精霊への年に一度の最高の報恩修行で、五如来の供養幡を仏壇に飾り、三尺のお塔婆をお墓に建てていただきます。

ご先祖さまや代々の仏さま方が最もお喜びになる、菩提寺が提供する至高の修行法要です。

暑いときだからこそ報恩の修行になるのです。

住職が檀家さまにご法事に伺って、お墓に三尺の施食塔婆が建っている

とホツとする安堵感が湧きます。

先祖代々の仏様が喜んでおられる想いが伝わってくるような気がします。

お布施も随意としていきますので、どうぞお気軽に申し込んでください。

八月七日と期日が決まっておりますので、お休みが取れない方や別の用事がおありの方はお塔婆を後から取りにおいで下さい。

当日受付の方は必ず前もってお電話で申し込んで下さい。

●施食会法話

施食会法話は、好評につき、昨年に引き続き八雲町平原の正禅寺住職、吉長裕教師をお招きします。

演題は「和尚の問わず語り2」

生きてりや

色々あるもんだ

どうぞご期待ください。

慶祝法要では見事な解説をしていただきました。

●盆棚経は期間を延ばしてなるべく全檀家を廻る予定です

棚経は昨年、浜東庭五百川宅まで終了しました。今年は大東五百川宅、後石本宅から開始します。

八月十三日～二十まで、八日間なるべく全檀家を廻る予定です。

朝七時～夕六時迄、十四日は初盆のお宅に参ります。

時間指定はできません。葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)

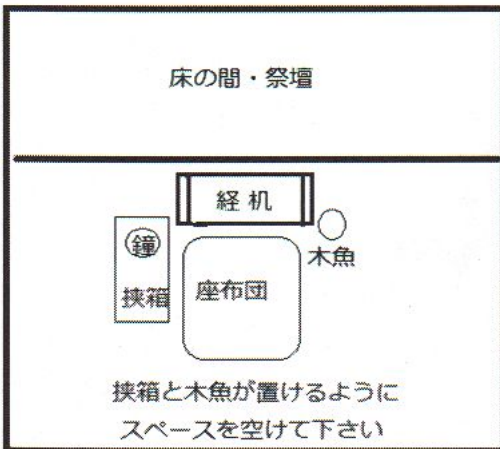
葬儀が多かったり、突発事情が多く発生した場合、全檀家を廻れない場合もありますのでご了承ください。

●秋葉祭は読経供養のみ、カラオケ大会は諸事情により休止します

●ご法事の際の注意事項

宅法事の際、床の間の前
の経机の左右にご親戚からのお供えを載せたお盆が多数並び、鐘や木魚が置きづらい場合がございますので、申し訳ございませんがスペースを確保しておいていただきますようお願いいたします。

床の間・祭壇



●住職はセンター布教師を
拝命しました

住職は、今年三月までは島根県第二宗務所の「宗務所布教師」でございましたが、(教化主事の四年間を除いて二十二年間)四月一日より中国管区教化センターの「センター布教師」を拝命いたしました。センター布教師は、各県各宗務所より一名が推薦されます。浅学非才の身でありながら任を賜り、光栄の砌でございます。

早速八月には米子の寺町五カ寺と岡山新見のお寺様に法話依頼を受け、十一月には鳥取市内の寺院奥様方の会(寺族会)に法話を依頼されました。今年の冬は広島へ、文化センター仏教講座(禅語)の講師として数回出かけます。また来年の夏には広島のお寺様での法話もすでに依頼されております。

今までも県外への布教に出かけることもあったのですが、これからは回数も増えて忙しくなると思います。幸い徒弟大裕がおりますので、大裕に法事等を任せられることも多くなると思っておりますので、どうかご理解くださいませ。

●弘長寺護持会独自の研修をいたします。

募集案内をいたしましたように、弘長寺護持会独自の研修として、当山開基・地頭・藤原満資公の出生地埼玉県行田市・熊谷市ヘルーツ追跡の旅に出かけます。

単なる物見遊山ではなく、これは開基様に対する報恩の研修事業と捉えています。(8ページ詳細)

●寺報「観自在」に対し、賛助金を頂戴しました。

金一封 安来市万松院様

お知らせ

お願い

●梅花全国大会

御詠歌講の全国大会が宮城県仙台市で開催されました。

大震災後、初の東北に於ける大会です。

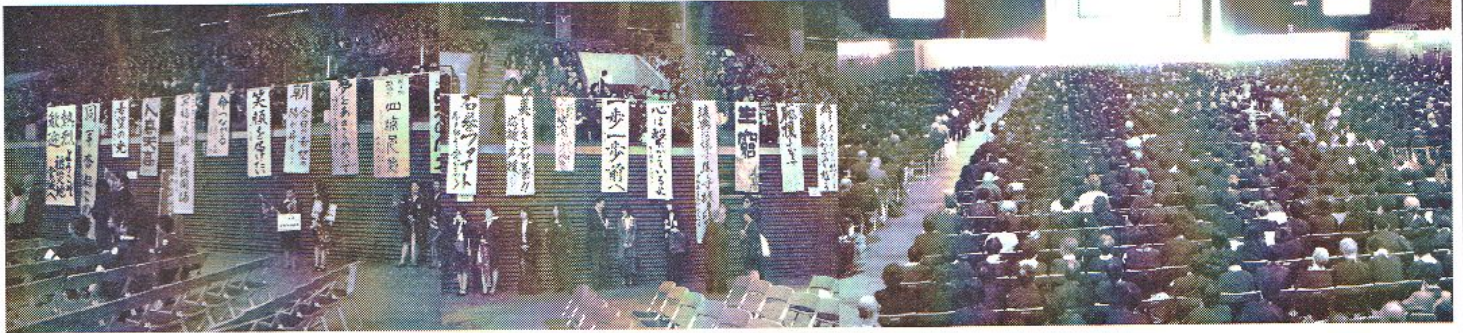
実際の津波災害の爪痕を目に焼き付けて、ただただ合掌の三日間でありました。

写真提供 島一宗務所



東日本大震災被災物故者追悼法要導師

曹洞宗管長・大本山永平寺貫首：福山諦法不老閣猊下



●梅花講新年会

梅花講に入ってみませんか。

今、弟子大裕が宗務所養成所にて研修中です。

二年後には白房四級となる予定ですので、そうなったら御詠歌指導は弟子と交代します。

若い感性で梅花講を盛り上げてもらいたいと思っております。



湖の長楽・国際ホテルにて

弘長寺独自研修旅行

熊谷：龍淵寺・巣鴨：高岩寺参拝

皆様には、ご健勝にてお過しの事と拝察申し上げます。
この度、弘長寺護持会では『熊谷：龍淵寺・巣鴨：高岩寺参拝の旅』を計画致しました。

成田家菩提寺の曹洞宗：龍淵寺参拝、忍城(おしじょう)、高岩寺(とげぬき地蔵)、東京スカイツリー等の参拝・観光を予定しております。

是非お誘い合わせてご参加下さいますようお願い申し上げます。
護持会会長 武田民三 合掌



【熊谷：龍淵寺本堂】

◎期 日 平成25年10月9日(水)～10日(木) 〈1泊2日〉

◎主 催 弘 長 寺 護 持 会 弘長寺(0852-66-0128)

◎定員・申込 15名

平成25年7月25日までにお寺へお申し込み下さい

◎行 程 (⇒航空機、=現地貸切バス利用)

10月9日 (水)	出雲空港⇒⇒<JAL-1662>⇒⇒羽田空港==<現地貸切バス>==<首都高等>== 7:50発 9:10着 10:00頃発 ==加須IC=(昼)=熊谷：龍淵寺参拝==行田：忍城・郷土博物館== 【成田家菩提寺・曹洞宗寺院】 【おしじょう】 ==<首都高速>==新宿ワシントンホテル(泊=本館ツインルーム利用) 17:40頃着
10月10日 (金)	ホ テ ル==巣鴨：高岩寺【とげぬき地蔵：曹洞宗寺院】==浅草(昼) 9:00頃発 ==東京スカイツリー【天望デッキ】==羽田空港⇒⇒<JAL-1671> ⇒⇒ 《約2時間滞在》 17:30頃着(夕=弁当) 18:30発

☆葬儀の達人になりましょう③は都合により次号に延載です

☆住職携帯：090-7120-6636